

【小学校・6年・音楽・「曲想の移り変わりを味わおう」】

育成を目指す資質・能力

B1（個に応じる学習）

曲想の変化と音楽の構造との関わりについて理解し、曲全体を味わって聴くことができる。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト

1人1台端末で楽曲を鑑賞することで、個々のペースで鑑賞活動を行うことができる。

学習の流れ

楽曲を一斉に聴き、曲全体の雰囲気をつかえる。

知覚・感受したことを共有し、楽曲について知る。

4種類の旋律を1人1台端末で聴き、曲想の移り変わりを聴き取る。

全体で聴き取ったことや感じ取ったことを共有し、再度一斉に楽曲を聴く。

事例の概要

本題材は、学習支援ソフトを活用した鑑賞の実践である。これまで鑑賞の授業は一斉に楽曲を聴き、学習を進めてきた。しかし、児童それぞれが「もう一度聴きたい」と感じる部分は様々である。1人1台端末を活用することで、個々のペースやニーズに合わせて鑑賞の活動を進めることができると考え、本題材を構想した。

今回は「ハンガリー舞曲第5番」を曲想の変化によって4つの部分に分け、学習支援ソフトのカードに旋律データを貼り付けて配付することで、児童がそれぞれ聴きたい部分を選んで鑑賞できるようにした。聴き取ったことや感じ取ったことを記述するワークシートは紙のものを配付し、聴きながらメモできるようにしている。全体で一斉に鑑賞する場面と、個々で鑑賞する場面を作ることで、曲全体を味わって聴くことにつながるよう構成した。

【小学校・6年・音楽・「曲想の移り変わりを味わおう」】

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



ICT活用のポイント

本題材で使用した学習支援ソフトは、プレゼンテーションソフトのようにカードを作成して発表したり、作成したカードを共有したりすることができる。今回はこの機能を活用して、旋律データをカードに貼り付けて配付することで、児童がそれぞれ聴きたい部分を選んで鑑賞できるようにした。

児童は、全体で一斉に鑑賞した後、1人1台端末で楽曲を鑑賞しながら、聴き取ったことと感じ取ったことをワークシートに記述した。最後にワークシートに記述したことを全体で共有した。全体で一斉に鑑賞する場面と個々で鑑賞する場面をつくることで、曲全体を味わって聴くことにつながるよう工夫した。一斉の鑑賞ではなかなか記述が進まない児童も、何度も聴き直ししながら自分の言葉でワークシートをまとめている様子が見られた。

1人1台端末で鑑賞するに当たっては、児童の様子を見取る難しさもあるため、机間指導によって声をかけながら必要な支援をするようにした。

小学校6年・音楽 「曲想の移り変わりを味わおう」

使用機器：1人1台端末、電子黒板 使用アプリ：学習支援ソフト

〈ICT活用のポイント〉

タブレットで楽曲を鑑賞することで、個々のペースで鑑賞活動を行うことができる。

1 題材の目標

速度、強弱、反復や変化などと曲想との関わりを考え、曲想の移り変わりを味わうとともに、曲のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴く。



2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想及びその変化と、速度、旋律の反復と変化、強弱との関わりを理解している。	思 曲想及びその変化と、速度、旋律の反復や変化、強弱との関わりについて理解したことを生かしながら、曲のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態 曲想及びその変化と、速度、旋律の反復と変化、強弱との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら曲想の移り変わりを味わって聴く学習に主体的に取り組もうとしている。

3 題材について

本題材は、速度や強弱などの音楽を形づくっている要素が一体となって醸し出す曲想を味わう学習である。鑑賞に当たっては、音楽を形づくっている要素の関わり合いに注目しながら、曲想やその変化を感じ取って音楽を聴き、全体で共有する活動などを通して、音楽を聴くことそのものの喜びを深めていく。そのために、児童の1人1台端末を活用することで、個人のペースで鑑賞の活動が行えるようにする。

4 指導と評価の計画 (2時間)

時間	学習内容	評価の観点			備考
		○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価			
		知・技	思・判・表	態	
1	・「ハンガリー舞曲第5番」を4つの部分に分けて鑑賞し、聴き取ったことや感じたことをまとめる。	◎	○	○	端末の基本操作や使用上の留意点は事前に指導しておく。

2	・「ハンガリー舞曲第5番」を紹介する文章を書く。		◎	◎	
---	--------------------------	--	---	---	--

5 ICTの効果的な活用について

本題材で使用した授業支援ソフトは、プレゼンテーションソフトのようにカードを作成して発表したり、作成したカードを共有したりすることができる。



本実践では、「ハンガリー舞曲第5番」を曲想の変化によって4つの部分に分け、授業支援ソフトのカードに旋律データを貼り付けて配付することで、児童がそれぞれ聴きたい部分を選んで鑑賞できるようにした。これまでの鑑賞の授業は、一斉に楽曲を聴き、学習を進めることが多かった。しかし、児童それぞれが「もう一度聴きたい」と感じる部分は様々であるため、個々のペースやニーズに合わせて、鑑賞の学習が進められるように、本題材を構成した。

児童は、全体で一斉に鑑賞した後、1人1台端末で楽曲を鑑賞しながら、聴き取ったことや感じたことをワークシートに記述した。最後にワークシートに記述したことを全体で共有した。全体で一斉に鑑賞する場面と個々で鑑賞する場面をつくることで、曲全体を味わって聴くことにつながるように工夫した。一斉での鑑賞では、なかなか記述が進まない児童も、何度も聴き直しながら、自分の言葉でワークシートをまとめている様子が見られた。

1人1台端末で楽曲を鑑賞するに当たっては、児童の様子を見取る難しさもあるため、机間指導によって声をかけながら、それぞれの児童に必要な支援を行うよう心がけた。また、教師が柔軟に対応できるよう、機器のトラブル等にも備えておく必要があると感じた。

